

行われ、24日の夜から25日にかけては久しぶりに集まる親族のための時間になっていたようです。日本ではクリスマスは恋人たちのためのイベントのようですが、アメリカでは家族や親戚が集まる機会であり、日本の正月に当たると思いました。



ケイウェル家では、ジョーンの恋人フランク、フランクのお母さん、フランクの息子一家、テキサスからの友人を迎えました。クリスマスは家族の集まる機会と述べましたが、ジョーンとフランクは翌年に結婚したので、このときはこれから家族になる人々の顔合わせを兼ねていたこととなります。

教会から戻って来た後に料理好きのジョーンの手作りのクリスマス・ディナーを楽しみました。クリスマスは七面鳥が広く知られていますが、七面鳥は身体がだるくなる成分が含まれているという理由で七面鳥ではなく、チキンの丸焼きがメインディッシュで、普段使用していないダイニング・ルームでの食事は特別でした。

翌日25日の午前中はクリスマス・ツリーの下に積んであったプレゼントを1つずつ開けてプレゼントを見せ合いました。私は、プレゼントは1人に1個だと思い込んでいましたが、ジョーンはスティーブンに5個、スティーブンは私に時計を初め3個もプレゼントを用意してくれていて、私は彼らにそれぞれ1個ずつだったので申し訳ないような気持ちになりました。ジョーンとフランクからはレザージャケットの他に、暖炉の脇に吊り下げてあった大きな靴下の中に私への缶ビールが1ダース入っていました。でもこのビールを冷蔵庫に入れておいたら、いつの間にかスティーブン（18歳）に飲まれてしまい、後に自分のうかつさを悔やむことになったのです。

キリスト教とドイツの祝祭 —クリスマスを中心に—

文学部 鈴木 康志
河合まゆみ



2020年のドイツの法定休日

- 1月1日 元旦 Neujahr
- 1月6日 聖三王来朝の日 Heilige Drei Könige
(一部の州のみ)
- 4月10日 聖金曜日 Karfreitag ☆
- 4月12日 復活祭の日曜日 Ostersonntag ☆
- 4月13日 復活祭の月曜日 Ostermontag ☆
- 5月1日 メーデー Tag der Arbeit
- 5月21日 キリスト昇天祭 Christi Himmelfahrt ☆
- 5月31日 聖霊降臨祭の日曜日 Pfingstsonntag ☆
- 6月1日 聖霊降臨祭の月曜日 Pfingstmontag ☆
- 6月11日 聖体祭 Fronleichnam (一部の州のみ) ☆
- 8月15日 マリア被昇天祭 Mariä Himmelfahrt
(一部の州のみ)
- 10月3日 ドイツ統一の日 Tag der Deutschen Einheit
- 10月31日 宗教改革記念日 Reformationstag
(一部の州のみ)
- 11月1日 万聖節 Allerheiligen (一部の州のみ)
- 11月18日 贖罪記念日 Buß- und Betttag (一部の州のみ) ☆
- 12月25日 第一クリスマス das erste Weihnachten
- 12月26日 第二クリスマス das zweite Weihnachten

ドイツの生活習慣や祝祭はキリスト教に深く根ざしています。上に挙げたドイツの法定休日のうち、1月1日の新年、5月1日のメーデー、10月3日のドイツ統一の日を除いて、すべてがキリスト教にちなんだ祝日です。ドイツの祝日には固定祝祭日と移動祝祭日(☆)があります。固定祝祭日は日本の祝日のように日にちが決まっていますが、移動祝祭日はキリスト教の祝祭に関わるもので、キリスト教会暦の計算に

したがって毎年日にちがきめられます。たとえば、復活祭は春分の日の後、最初の満月の次の日曜日です。またカトリックの州とプロテスタントの州では祝日が異なり、同じ祝日でも祝い方が違うこともあります。

クリスマスはドイツ語ではWeihnachten（聖夜）といい、キリスト教徒にとっては復活祭と並ぶ大切な宗教行事です。クリスマス前の4週間の準備期間はアトヴェント（待降節）といい、家庭ではアトヴェント・クランツを飾り、各地でクリスマス市がたちます。また12月6日はサンタクロースのモデルとなった聖ニコラウスの日です。クリスマスイブにはキリストキントが子供たちにプレゼントを持ってきます。24日の夜からクリスマスの2日間は、家族で静かに祝い、商店などはすべて閉じてしまいます。

みなさんはクリスマスというと北欧やアメリカを思い浮かべますが、今あるクリスマスの習慣にドイツがいかに深く関わっているかご存じでしょうか。いくつかご紹介します。

○クリスマスツリー

ツリーを飾る習慣は15、16世紀に、ドイツ語圏のエルザス地方で始まり、それがドイツ人の手により、ヨーロッパ各地やアメリカにもたらされました。ツリーに飾るガラス玉などクリスマスグッズの生産も戦前まではドイツが一手に引き受けていました。

○アトヴェント・クランツ（リース）

ゲルマン異教時代からのサークルおよび常緑樹信仰(魔除け)の名残です。19世紀中頃ハンブルクの牧師ヴィヒェルンが12月から毎日ロウソクを灯し、キリストの誕生を待ち望んだのが起源で、その後輪にロウソクを立て、その習慣がドイツ全土や北欧に広がりました。

○クリスマスマーケット

世界最初のクリスマスマーケットはすでに14世紀頃からミュンヘンやドレスデンで開催されていました。現在世界最大のクリスマスマーケットはニュルンベルクです。でも小さな田舎町のクリスマスマーケットも素敵ですよ。

○アトヴェント・カレンダー

12月1日から24日まで、カレンダーの小窓を毎日一つずつ開けていくアトヴェント・カレンダーですが、1903年にミュンヘンの印刷業者ラングが現在の原型のものを作りました。

○クリスマスソング「きよしこの夜」

1818年のクリスマスにオーストリアの小さな村で作られたドイツ語の歌です。讚美歌を歌うためのオルガンが壊れたため、急遽教会の牧師ヨゼフ・モアにより作詞、村の小学校の教師兼オルガニストのフランツ・グルーバーに作曲され、ギターに合わせ歌われたものです。

○クリスマスカード

世界最初のクリスマスカードは1843年イギリスですが、その普及の一因は、1870年頃ドイツ人シュヴァルツが世界で初めて絵葉書の製作販売を始めたことです。

○サンタクロース

今日のサンタクロースは、17世紀にオランダから移民とともにアメリカに渡った聖ニコラウスが250年をかけて出来上がったものです。でも、ニコニコ顔のサンタの生みの親はドイツ移民の画家トーマス・ナストです。彼はドイツでの子供時代のクリスマス体験をもとにサンタを描きました。やはりドイツが関わっていますね。

もしドイツのクリスマスについてもっと知りたいなら、以下の本やDVDがおすすめです。

若林ひとみ『クリスマスの文化史』白水社
DVD『クリスマス街道欧州3国 映像と音楽の旅』シンフォレスト

